

特別保護地区における土壤保全対策について

(自然林内の表面土壤侵食対策)

(1) 取り組みの背景

① 旧計画における丹沢大山保全対策

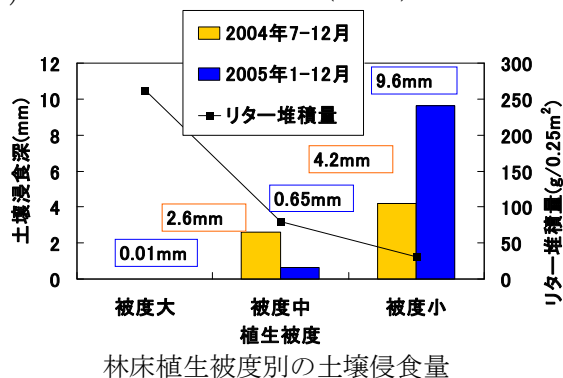
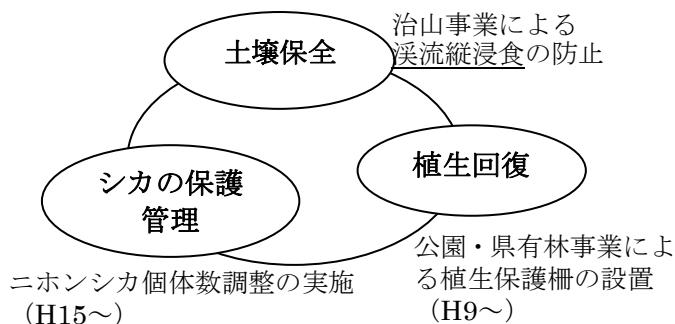
清川村中津川エリアを保全再生重点区域に設定し、植生回復対策、シカ保護管理対策、溪流縦侵食防止対策を一体として行ってきたが、面的な土壤保全までは取り組んでいない。

② 自然林内の表面土壤侵食の深刻化

丹沢大山総合調査を開始したところ、植生保護柵の中の林床植生健全区では、ほとんど土壤侵食が見られないが、植生保護柵の外の林床植生衰退区では、急激な土壤侵食が起きていることが判明した。

③ 従来の植生保護柵設置手法の限界

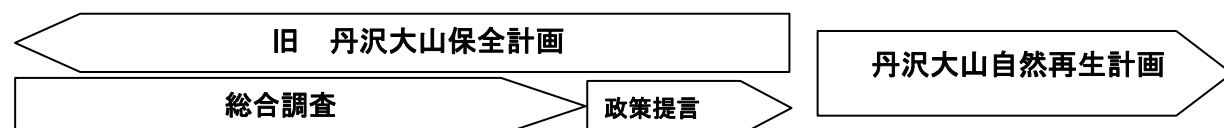
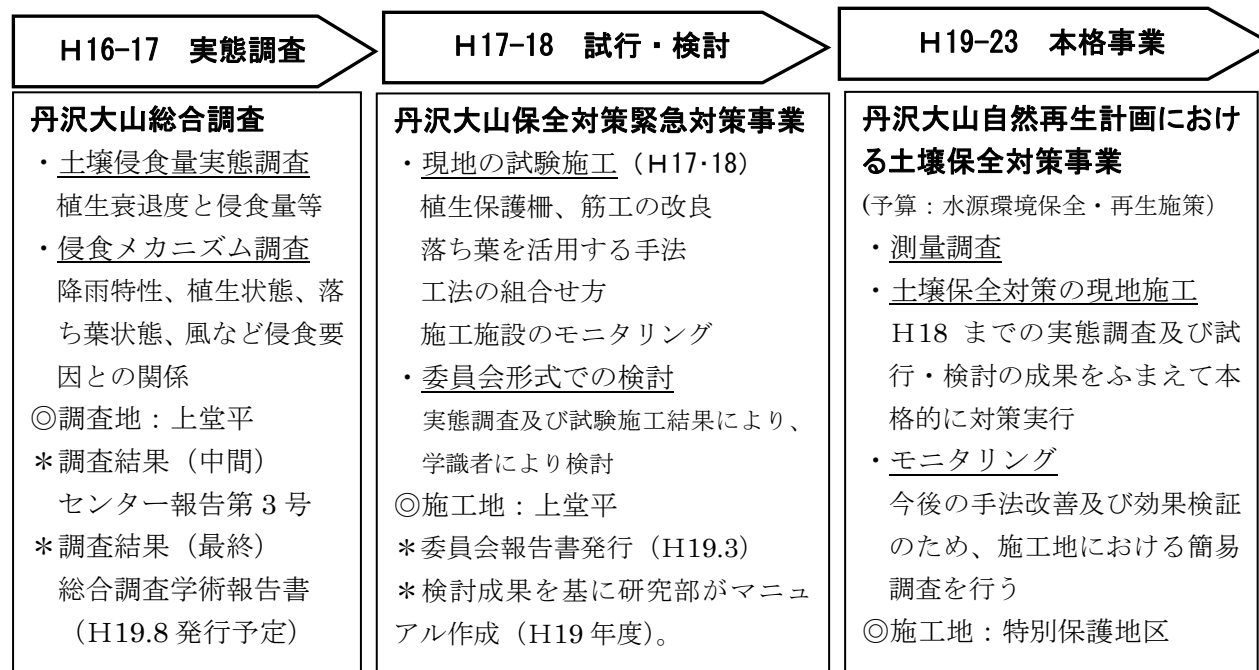
林床植生の回復により、土壤は保全されるが、従来の植生保護柵設置手法を特別保護地区全域に拡大するには、維持管理面・構造面・即効性の面等から課題がある。



以上をふまえて、自然林内の表面土壤侵食対策として、

- ① 特別保護地区にふさわしい環境負荷の少ない土壤保全手法の改良・開発
- ② シカ・植生対策と連携し、総合的かつ順応的な現地対策の推進

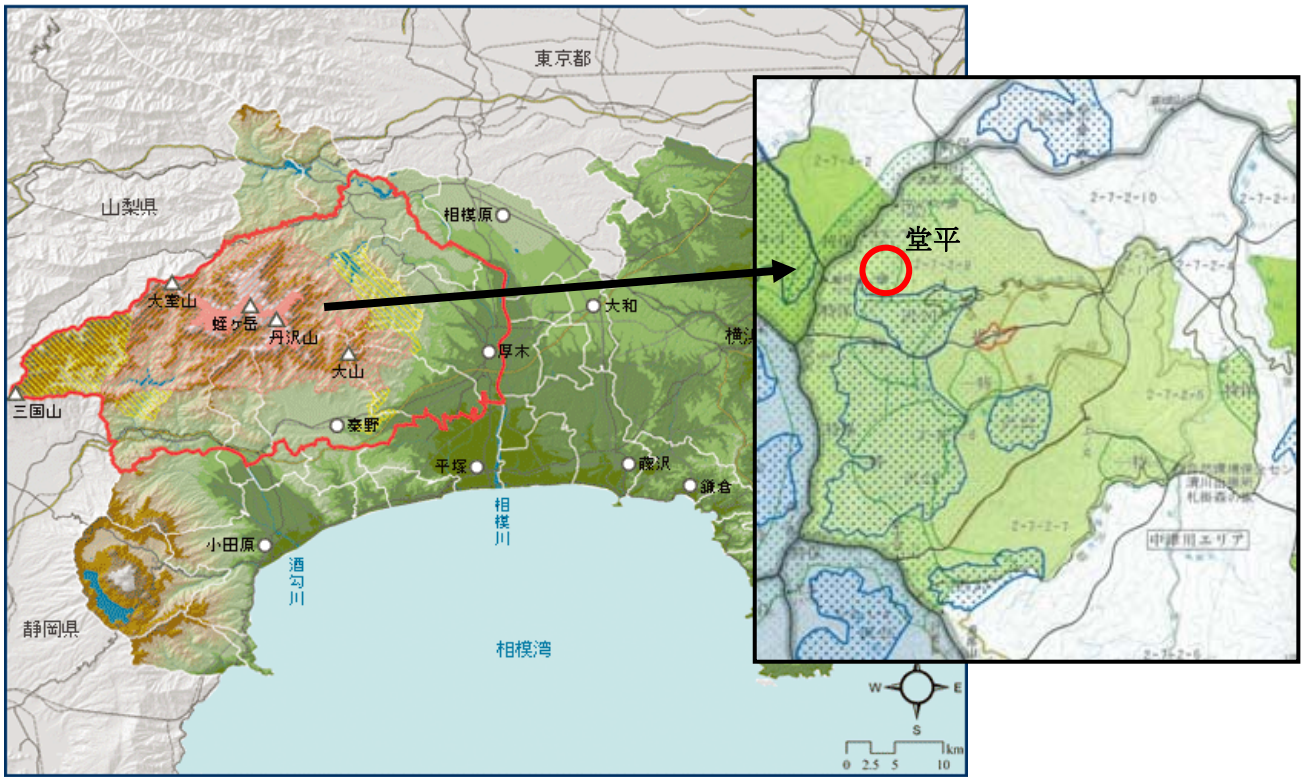
(2) 対策の段階的な取り組み



○実施箇所

H16～18 の調査及び施工地・・・清川村煤ヶ谷(堂平)

H19 以降の対策事業・・・特別保護地区全域を対象



丹沢大山国定公園等区域図（2004年）より作成

- 丹沢大山地域
- 高速道路
- 国道
- 鉄道
- 水域
- 国定公園
- 国定公園特別保護地区
- 県立公園

○試験施工の事例

